

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第4項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成26年12月15日

【四半期会計期間】 第109期第2四半期（自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日）

【会社名】 虹技株式会社

【英訳名】 KOGI CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 堀田 一之

【本店の所在の場所】 兵庫県姫路市大津区勘兵衛町4丁目1番地

【電話番号】 姫路(079)236 - 3221

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 谷岡 宗

【最寄りの連絡場所】 兵庫県姫路市大津区勘兵衛町4丁目1番地

【電話番号】 姫路(079)236 - 3221

【事務連絡者氏名】 取締役経理部長 谷岡 宗

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

当社において不適切な会計処理がなされた可能性があることについて、当社と利害関係のない専門家で構成される第三者委員会を設置し調査を進めてまいりました。平成26年12月12日、第三者委員会から調査結果の報告を受け、連結財務諸表の修正等、必要と認められる訂正を行うことといたしました。

これらの決算訂正により、当社が平成25年11月13日に提出いたしました第109期第2四半期(自平成25年7月1日至平成25年9月30日)に係る四半期報告書の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正後の四半期連結財務諸表につきましては、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けており、その四半期レビュー報告書を添付しております。

また、四半期連結財務諸表の記載内容に係る訂正箇所については、XBRLの修正も行いましたので併せて修正後のXBRL形式のデータ式(表示情報ファイルを含む)を提出いたします。

2【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

第2 事業の状況

3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

四半期連結包括利益計算書

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

注記事項

(セグメント情報等)

(1株当たり情報)

3【訂正箇所】

訂正箇所は_____線を付して表示しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(訂正前)

回次	第108期 第2四半期 連結累計期間	第109期 第2四半期 連結累計期間	第108期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (百万円)	8,269	8,509	17,245
経常利益 (百万円)	156	195	579
四半期(当期)純利益 (百万円)	71	91	284
四半期包括利益又は 包括利益 (百万円)	99	595	715
純資産額 (百万円)	8,764	9,783	9,380
総資産額 (百万円)	20,174	21,266	20,439
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	2.17	2.78	8.60
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	39.4	40.5	41.2
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	499	1,041	1,354
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	787	205	1,165
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	546	113	246
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	3,285	3,754	2,992

回次	第108期 第2四半期連結会計期間	第109期 第2四半期連結会計期間
会計期間	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益 金額 (円)	0.55	1.18

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(訂正後)

回次	第108期 第2四半期 連結累計期間	第109期 第2四半期 連結累計期間	第108期
会計期間	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高 (百万円)	8,269	8,509	17,245
経常利益 (百万円)	36	233	412
四半期(当期)純利益 (百万円)	1	115	180
四半期包括利益又は 包括利益 (百万円)	28	619	612
純資産額 (百万円)	8,571	9,581	9,155
総資産額 (百万円)	19,982	21,064	20,213
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	0.03	3.50	5.47
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	38.9	39.9	40.6
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	499	1,041	1,354
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	787	205	1,165
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	546	113	246
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	3,285	3,754	2,992

回次	第108期 第2四半期連結会計期間	第109期 第2四半期連結会計期間
会計期間	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日	自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日
1株当たり四半期純利益 金額又は1株当たり四半期 純損失金額 (円)	0.06	1.72

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

第2【事業の状況】

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(訂正前)

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、年央にかけての消費者マインド改善や足もとの雇用・所得環境に改善の動きがみられるもとで個人消費は底堅く推移し、企業の設備投資も持ち直しの兆しを見せてまいりましたが、景気の減速懸念もくすぶっており、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のもとで当社グループは、『品質ナンバーワン』＝「ファーストコールカンパニーを目指す」、『技術開発への取り組みの強化』、『人材の育成』、『財務体質の更なる強化』を基本方針とする第4次3カ年計画を本年度から新たにスタートさせ、産業構造のグローバル化が進展するなか、国内の事業基盤を磐石にするとともに海外への事業展開を含めた事業の拡大に取り組み、国内においては姫路工場敷地内に太陽光発電所を建設し、海外事業においては堅調な自動車需要の拡大が見込まれるインドネシア共和国において株式会社エイチワン及びPT. RODA PRIMA LANCARとの間で、自動車用金型鋳物及び自動車用プレス金型の製造・販売を手がける合弁会社 PT.H-ONE KOGI PRIMA AUTO TECHNOLOGIES INDONESIAを設立することいたしました。

当第2四半期連結累計期間の業績は、国内事業は電力料金の値上げや国内民間設備投資の回復の遅れなどにより伸び悩みましたが、海外事業の天津虹岡鋳鋼有限公司が国内の低迷を大きくカバーする状況で堅調に推移し、売上高 85億9百万円（前年同期比 2.9%増）、営業利益 1億9千3百万円（前年同期比 11.1%増）、経常利益 1億9千5百万円（前年同期比 25.2%増）、四半期純利益 9千1百万円（前年同期比 28.2%増）となり、増収増益となりました。

なお、上記の経常利益には、退職給付会計の数理計算上の差異の償却に係る信託株式の時価変動による損益（は損失）を、1億7千万円（前年同期 2億6千2百万円）、同じく四半期純利益には、1億5百万円（前年同期 1億6千2百万円）を含んでおります。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

鋳物関連事業

鋳型は、鍛造鋼塊用鋳型の需要低迷などにより、売上高は前年同期を下回りました。ロールは、主要顧客先である国内高炉・電炉各社の生産は増産基調にあるものの、客先ロール在庫の消耗量が少なく、購入量の抑制もあり、低調に推移いたしました。自動車用プレス金型鋳物は、国内市場の縮小が続くなか、国内カーメーカー主体の受注活動に努めましたが、売上高は前年同期を下回りました。大型産業機械用鋳物は、平成24年秋口以降急速に落ち込んだ工作機械業界が徐々に回復し、売上高は前年同期を上回りました。小型鋳物は、機械鋳物類が引き続き堅調に推移し、主力である新型人孔鉄蓋や次世代型高品位鉄蓋などの下水道鉄蓋の拡販や電線共同溝用鉄蓋の需要増により、売上高は前年同期を上回りました。デンスパーは、公共工事事用部材向け及び輸出の売上は増加したものの、国内産業機械向け需要の減少を補いきれず、売上高は前年同期を下回りました。

中国国内で自動車用プレス金型鋳物の生産・販売を手がける天津虹岡鋳鋼有限公司は、現地自動車産業の旺盛な需要を受け堅調に推移したことに加え、為替等の影響もあり、売上高は前年同期を上回りました。

この結果、当事業の売上高は、70億4千8百万円（前年同期比 0.1%減）、経常利益 2億9千3百万円（前年同期比 31.5%減）となりました。

その他の事業

送風機は、国内設備投資の縮小の影響を受け、厳しい受注環境が続くなか、大型送風機の受注確保、高効率ファンの浸透、耐熱ファンの受注拡大に努め、売上高は前年同期を上回りました。環境・省エネ商品のトランスベクターは、市場が不透明で前年同期のような活発な動きが無く、売上高は前年同期を下回りました。KCメタルファイバーは、国内自動車生産が回復するなか、好調な北米・東南アジア向けの自動車販売にともなう摩擦材需要にも支えられ、売上高は前年同期を上回りました。KCカーボンセラミックスは、主要顧客先であるアルミ業界向け需要が好調に推移したことなどにより、売上高は前年同期を上回りました。環境装置事業は、都市ゴミ焼却炉延命化工事の大口物件の売上により、売上高は前年同期を大幅に上回りました。

この結果、当事業の売上高は、14億6千1百万円（前年同期比 20.1%増）、経常利益 1億5千万円（前年同期比 10.3%増）となりました。

なお、上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は、125億2千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億2百万円増加いたしました。これは、主として現金及び預金が7億6千2百万円増加し、受取手形及び売掛金が6億3千5百万円減少したことなどによります。

固定資産は、87億4千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億2千4百万円増加いたしました。

この結果、総資産は、212億6千6百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億2千6百万円増加いたしました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は、82億8千万円となり、前連結会計年度末に比べ3億7千9百万円増加いたしました。

固定負債は、32億2百万円となり、前連結会計年度末に比べ4千4百万円増加いたしました。

この結果、負債合計は、114億8千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億2千4百万円増加いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、97億8千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億2百万円増加いたしました。これは主として為替レートの変動により為替換算調整勘定が1億6千5百万円増加したことなどによります。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の41.2%から40.5%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度に比べ7億6千2百万円増加し、37億5千4百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、10億4千1百万円の増加(前年同四半期連結累計期間 4億9千9百万円 増加)となりました。主な内訳は、税金等調整前四半期純利益2億4百万円、減価償却費4億6千万円、売上債権の減少7億3千3百万円による資金の増加と法人税等の支払2億2千1百万円による資金の減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、2億5百万円の減少(前年同四半期連結累計期間 7億8千7百万円 減少)となりました。主な内訳は、有形固定資産の取得による支出3億2千5百万円による資金の減少によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、1億1千3百万円の減少(前年同四半期連結累計期間 5億4千6百万円 増加)となりました。主な内訳は、配当金の支払1億6千5百万円による資金の減少によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は3千5百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設について、当第2四半期連結累計期間に完成したものは次のとおりです。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	完成年月
提出会社	姫路東工場 (兵庫県姫路市)	その他	太陽光発電設備	平成25年4月

当第2四半期連結累計期間において、新たに確定した重要な設備の新設計画はありません。

なお、経常的な設備更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画ありません。

(7) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社グループを取り巻く事業環境は、鋳物事業市場の成熟化が進むなか、競合の激化、事業環境の急激な変化、先行き不透明な経済状況など、依然として予断を許さない状況が続くものと予想されます。このような環境のもと、当社グループは、第4次3カ年計画の諸施策を着実に実行し、強固な企業体質の実現と企業価値の向上に努めてまいります。

(訂正後)

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ(当社及び連結子会社)が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、年央にかけての消費者マインド改善や足もとの雇用・所得環境に改善の動きがみられるもとで個人消費は底堅く推移し、企業の設備投資も持ち直しの兆しを見せてまいりましたが、景気の減速懸念もくすぶっており、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況のもとで当社グループは、『品質ナンバーワン』=「ファーストコールカンパニーを目指す」、『技術開発への取り組みの強化』、『人材の育成』、『財務体質の更なる強化』を基本方針とする第4次3カ年計画を本年度から新たにスタートさせ、産業構造のグローバル化が進展するなか、国内の事業基盤を磐石にするとともに海外への事業展開を含めた事業の拡大に取り組み、国内においては姫路工場敷地内に太陽光発電所を建設し、海外事業においては堅調な自動車需要の拡大が見込まれるインドネシア共和国において株式会社エイチワン及びPT. RODA PRIMA LANCARとの間で、自動車用金型鋳物及び自動車用プレス金型の製造・販売を手がける合弁会社 PT.H-ONE KOGI PRIMA AUTO TECHNOLOGIES INDONESIAを設立することいたしました。

当第2四半期連結累計期間の業績は、国内事業は電力料金の値上げや国内民間設備投資の回復の遅れなどにより伸び悩みましたが、海外事業の天津虹岡鋳鋼有限公司が国内の低迷を大きくカバーする状況で堅調に推移し、売上高 85億9百万円(前年同期比 2.9%増)、営業利益 2億3千1百万円(前年同期比 328.0%増)、経常利益 2億3千3百万円(前年同期比 542.1%増)、四半期純利益 1億1千5百万円(前年同期比 -)となり、増収増益となりました。

なお、上記の経常利益には、退職給付会計の数理計算上の差異の償却に係る信託株式の時価変動による損益(は損失)を、1億6千6百万円(前年同期 2億6千8百万円)、同じく四半期純利益には、1億2百万円(前年同期 1億6千6百万円)を含んでおります。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

鋳物関連事業

鋳型は、鍛造鋼塊用鋳型の需要低迷などにより、売上高は前年同期を下回りました。ロールは、主要顧客先である国内高炉・電炉各社の生産は増産基調にあるものの、客先ロール在庫の消耗量が少なく、購入量の抑制もあり、低調に推移いたしました。自動車用プレス金型鋳物は、国内市場の縮小が続くなか、国内カーメーカー主体の受注活動に努めましたが、売上高は前年同期を下回りました。大型産業機械用鋳物は、平成24年秋口以降急速に落ち込んだ工作機械業界が徐々に回復し、売上高は前年同期を上回りました。小型鋳物は、機械鋳物類が引き続き堅調に推移し、主力である新型人孔鉄蓋や次世代型高品位鉄蓋などの下水道鉄蓋の拡販や電線共同溝用鉄蓋の需要増により、売上高は前年同期を上回りました。デンスパーは、公共工事事用部材向け及び輸出の売上は増加したものの、国内産業機械向け需要の減少を補いきれず、売上高は前年同期を下回りました。

中国国内で自動車用プレス金型鋳物の生産・販売を手がける天津虹岡鋳鋼有限公司は、現地自動車産業の旺盛な需要を受け堅調に推移したことに加え、為替等の影響もあり、売上高は前年同期を上回りました。

この結果、当事業の売上高は、70億4千8百万円(前年同期比 0.1%減)、経常利益 3億2千7百万円(前年同期比 3.9%増)となりました。

その他の事業

送風機は、国内設備投資の縮小の影響を受け、厳しい受注環境が続くなか、大型送風機の受注確保、高効率ファンの浸透、耐熱ファンの受注拡大に努め、売上高は前年同期を上回りました。環境・省エネ商品のトランスベクターは、市場が不透明で前年同期のような活発な動きが無く、売上高は前年同期を下回りました。KCメタルファイバーは、国内自動車生産が回復するなか、好調な北米・東南アジア向けの自動車販売にともなう摩擦材需要にも支えられ、売上高は前年同期を上回りました。KCカーボンセラミックスは、主要顧客先であるアルミ業界向け需要が好調に推移したことなどにより、売上高は前年同期を上回りました。環境装置事業は、都市ゴミ焼却炉延命化工事の大口物件の売上により、売上高は前年同期を大幅に上回りました。

この結果、当事業の売上高は、14億6千1百万円(前年同期比 20.1%増)、経常利益 1億5千万円(前年同期比 10.3%増)となりました。

なお、上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は、123億2千万円となり、前連結会計年度末に比べ1億2千6百万円増加いたしました。これは、主として現金及び預金が7億6千2百万円増加し、受取手形及び売掛金が6億3千5百万円減少したことなどによります。

固定資産は、87億4千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ7億2千4百万円増加いたしました。

この結果、総資産は、210億6千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億5千万円増加いたしました。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は、82億8千万円となり、前連結会計年度末に比べ3億7千9百万円増加いたしました。

固定負債は、32億2百万円となり、前連結会計年度末に比べ4千4百万円増加いたしました。

この結果、負債合計は、114億8千3百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億2千4百万円増加いたしました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、95億8千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億2千6百万円増加いたしました。これは主として為替レートの変動により為替換算調整勘定が1億6千5百万円増加したことなどによります。

この結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の40.6%から39.9%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度に比べ7億6千2百万円増加し、37億5千4百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果、10億4千1百万円の増加(前年同四半期連結累計期間 4億9千9百万円 増加)となりました。主な内訳は、税金等調整前四半期純利益2億4千3百万円、減価償却費4億6千万円、売上債権の減少7億3千3百万円による資金の増加と法人税等の支払2億2千1百万円による資金の減少によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果、2億5百万円の減少(前年同四半期連結累計期間 7億8千7百万円 減少)となりました。主な内訳は、有形固定資産の取得による支出3億2千5百万円による資金の減少によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果、1億1千3百万円の減少(前年同四半期連結累計期間 5億4千6百万円 増加)となりました。主な内訳は、配当金の支払1億6千5百万円による資金の減少によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は3千5百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 主要な設備

前連結会計年度末において計画中であった重要な設備の新設について、当第2四半期連結累計期間に完成したものは次のとおりです。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	完成年月
提出会社	姫路東工場 (兵庫県姫路市)	その他	太陽光発電設備	平成25年4月

当第2四半期連結累計期間において、新たに確定した重要な設備の新設計画はありません。

なお、経常的な設備更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画ありません。

(7) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社グループを取り巻く事業環境は、鋳物事業市場の成熟化が進むなか、競合の激化、事業環境の急激な変化、先行き不透明な経済状況など、依然として予断を許さない状況が続くものと予想されます。このような環境のもと、当社グループは、第4次3カ年計画の諸施策を着実に実行し、強固な企業体質の実現と企業価値の向上に努めてまいります。

第4【経理の状況】

(訂正前)

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

(訂正後)

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成25年7月1日から平成25年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

また、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受け、改めて四半期レビュー報告書を受領しております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(訂正前)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,003	3,765
受取手形及び売掛金	5,942	5,307
有価証券	187	-
商品及び製品	1,340	1,306
仕掛品	868	1,024
原材料及び貯蔵品	848	819
繰延税金資産	83	96
その他	166	217
貸倒引当金	21	15
流動資産合計	12,419	12,521
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,373	1,609
機械装置及び運搬具(純額)	2,116	2,598
土地	795	795
その他(純額)	997	926
有形固定資産合計	5,283	5,931
無形固定資産	14	19
投資その他の資産		
投資有価証券	1,263	1,405
前払年金費用	1,327	1,193
その他	131	195
貸倒引当金	0	0
投資その他の資産合計	2,722	2,793
固定資産合計	8,020	8,744
資産合計	20,439	21,266

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,053	3,062
短期借入金	3 2,537	3 2,492
未払法人税等	212	281
賞与引当金	110	110
その他	1,986	2,332
流動負債合計	7,900	8,280
固定負債		
社債	90	60
長期借入金	2,616	2,908
繰延税金負債	299	81
未払役員退職慰労金	63	50
退職給付引当金	79	86
環境対策引当金	6	6
その他	2	10
固定負債合計	3,158	3,202
負債合計	11,058	11,483
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,002	2,002
資本剰余金	587	587
利益剰余金	5,556	5,482
自己株式	67	67
株主資本合計	8,078	8,004
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	318	404
繰延ヘッジ損益	9	3
為替換算調整勘定	38	204
その他の包括利益累計額合計	347	606
新株予約権	5	5
少数株主持分	948	1,165
純資産合計	9,380	9,783
負債純資産合計	20,439	21,266

(訂正後)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,003	3,765
受取手形及び売掛金	5,942	5,307
有価証券	187	-
商品及び製品	1,020	988
仕掛品	826	1,030
原材料及び貯蔵品	836	795
繰延税金資産	232	230
その他	166	217
貸倒引当金	21	15
流動資産合計	12,193	12,320
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,373	1,609
機械装置及び運搬具(純額)	2,116	2,598
土地	795	795
その他(純額)	997	926
有形固定資産合計	5,283	5,931
無形固定資産	14	19
投資その他の資産		
投資有価証券	1,263	1,405
前払年金費用	1,327	1,193
その他	131	195
貸倒引当金	0	0
投資その他の資産合計	2,722	2,793
固定資産合計	8,020	8,744
資産合計	20,213	21,064

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,053	3,062
短期借入金	3 2,537	3 2,492
未払法人税等	212	281
賞与引当金	110	110
その他	1,986	2,332
流動負債合計	7,900	8,280
固定負債		
社債	90	60
長期借入金	2,616	2,908
繰延税金負債	299	81
未払役員退職慰労金	63	50
退職給付引当金	79	86
環境対策引当金	6	6
その他	2	10
固定負債合計	3,158	3,202
負債合計	11,058	11,483
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,002	2,002
資本剰余金	587	587
利益剰余金	5,330	5,281
自己株式	67	67
株主資本合計	7,853	7,803
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	318	404
繰延ヘッジ損益	9	3
為替換算調整勘定	38	204
その他の包括利益累計額合計	347	606
新株予約権	5	5
少数株主持分	948	1,165
純資産合計	9,155	9,581
負債純資産合計	20,213	21,064

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(訂正前)

(単位 : 百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成24年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 9 月30日)
売上高	8,269	8,509
売上原価	7,120	7,331
売上総利益	1,148	1,178
販売費及び一般管理費	1,975	1,985
営業利益	173	193
営業外収益		
受取利息及び配当金	13	14
為替差益	-	35
その他	80	18
営業外収益合計	94	67
営業外費用		
支払利息	51	42
支払補償費	33	-
その他	26	23
営業外費用合計	112	65
経常利益	156	195
特別利益		
投資有価証券償還益	-	9
特別利益合計	-	9
税金等調整前四半期純利益	156	204
法人税、住民税及び事業税	132	297
法人税等調整額	109	270
法人税等合計	23	26
少数株主損益調整前四半期純利益	132	177
少数株主利益	61	85
四半期純利益	71	91

(訂正後)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	8,269	8,509
売上原価	7,240	7,292
売上総利益	1,029	1,216
販売費及び一般管理費	1,975	1,985
営業利益	54	231
営業外収益		
受取利息及び配当金	13	14
為替差益	-	35
その他	80	18
営業外収益合計	94	67
営業外費用		
支払利息	51	42
支払補償費	33	-
その他	26	23
営業外費用合計	112	65
経常利益	36	233
特別利益		
投資有価証券償還益	-	9
特別利益合計	-	9
税金等調整前四半期純利益	36	243
法人税、住民税及び事業税	132	297
法人税等調整額	158	256
法人税等合計	25	41
少数株主損益調整前四半期純利益	62	201
少数株主利益	61	85
四半期純利益	1	115

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(訂正前)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	132	177
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	85	86
繰延ヘッジ損益	24	5
為替換算調整勘定	27	325
その他の包括利益合計	33	418
四半期包括利益	99	595
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	24	350
少数株主に係る四半期包括利益	74	245

(訂正後)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	62	201
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	85	86
繰延ヘッジ損益	24	5
為替換算調整勘定	27	325
その他の包括利益合計	33	418
四半期包括利益	28	619
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	46	374
少数株主に係る四半期包括利益	74	245

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】
(訂正前)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	156	204
減価償却費	432	460
賞与引当金の増減額(は減少)	22	0
貸倒引当金の増減額(は減少)	55	5
未払役員退職慰労金の増減額(は減少)	-	12
退職給付引当金の増減額(は減少)	5	6
環境対策引当金の増減額(は減少)	10	-
受取利息及び受取配当金	13	14
支払利息	51	42
固定資産処分損益(は益)	3	4
投資有価証券償還損益(は益)	-	9
売上債権の増減額(は増加)	503	733
たな卸資産の増減額(は増加)	31	80
仕入債務の増減額(は減少)	531	0
前払年金費用の増減額(は増加)	298	133
その他	45	175
小計	787	1,289
利息及び配当金の受取額	13	14
利息の支払額	52	40
法人税等の支払額	248	221
営業活動によるキャッシュ・フロー	499	1,041
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(は増加)	5	50
有価証券の償還による収入	-	178
有形固定資産の取得による支出	731	325
投資有価証券の取得による支出	50	0
長期貸付金の回収による収入	0	0
その他	0	8
投資活動によるキャッシュ・フロー	787	205
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	105	62
長期借入れによる収入	1,349	950
長期借入金の返済による支出	712	776
社債の償還による支出	30	30
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	165	165
少数株主への配当金の支払額	-	27
その他	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	546	113
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	39
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	262	762
現金及び現金同等物の期首残高	3,022	2,992
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 3,285	1 3,754

(訂正後)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	36	243
減価償却費	432	460
賞与引当金の増減額(は減少)	22	0
貸倒引当金の増減額(は減少)	55	5
未払役員退職慰労金の増減額(は減少)	-	12
退職給付引当金の増減額(は減少)	5	6
環境対策引当金の増減額(は減少)	10	-
受取利息及び受取配当金	13	14
支払利息	51	42
固定資産処分損益(は益)	3	4
投資有価証券償還損益(は益)	-	9
売上債権の増減額(は増加)	503	733
たな卸資産の増減額(は増加)	88	118
仕入債務の増減額(は減少)	531	0
前払年金費用の増減額(は増加)	298	133
その他	45	175
小計	787	1,289
利息及び配当金の受取額	13	14
利息の支払額	52	40
法人税等の支払額	248	221
営業活動によるキャッシュ・フロー	499	1,041
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額(は増加)	5	50
有価証券の償還による収入	-	178
有形固定資産の取得による支出	731	325
投資有価証券の取得による支出	50	0
長期貸付金の回収による収入	0	0
その他	0	8
投資活動によるキャッシュ・フロー	787	205
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	105	62
長期借入れによる収入	1,349	950
長期借入金の返済による支出	712	776
社債の償還による支出	30	30
自己株式の取得による支出	0	0
配当金の支払額	165	165
少数株主への配当金の支払額	-	27
その他	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	546	113
現金及び現金同等物に係る換算差額	3	39
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	262	762
現金及び現金同等物の期首残高	3,022	2,992
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 3,285	1 3,754

【注記事項】

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

(訂正前)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	鋳物関連事業	その他	計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高					
外部顧客への売上高	7,052	1,216	8,269	-	8,269
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	4	4	4	-
計	7,052	1,220	8,273	4	8,269
セグメント利益	427	136	564	408	156

(注)1. セグメント利益の調整額 4億8百万円には、報告セグメント及びその他に帰属しない本社管理部門にかかる費用が 1億5千9百万円、営業外収益が3千9百万円、営業外費用が 2千6百万円及び退職給付会計の数理計算上の差異の償却に係る信託株式の時価変動による損益(は損失)が 2億6千2百万円含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	鋳物関連事業	その他	計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高					
外部顧客への売上高	7,048	1,461	8,509	-	8,509
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	3	3	3	-
計	7,048	1,464	8,512	3	8,509
セグメント利益	293	150	444	248	195

(注)1. セグメント利益の調整額 248百万円には、報告セグメント及びその他に帰属しない本社管理部門にかかる費用が 116百万円、営業外収益が61百万円、営業外費用が 23百万円及び退職給付会計の数理計算上の差異の償却に係る信託株式の時価変動による損益(は損失)が 170百万円含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(訂正後)

前第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	鋳物関連事業	その他	計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高					
外部顧客への売上高	7,052	1,216	8,269	-	8,269
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	4	4	4	-
計	7,052	1,220	8,273	4	8,269
セグメント利益	<u>314</u>	136	<u>451</u>	<u>415</u>	<u>36</u>

(注)1. セグメント利益の調整額 4億1千5百万円には、報告セグメント及びその他に帰属しない本社管理部門にかかる費用が1億5千9百万円、営業外収益が3千9百万円、営業外費用が2千6百万円及び退職給付会計の数理計算上の差異の償却に係る信託株式の時価変動による損益(は損失)が2億6千8百万円含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	鋳物関連事業	その他	計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
売上高					
外部顧客への売上高	7,048	1,461	8,509	-	8,509
セグメント間の内部 売上高又は振替高	-	3	3	3	-
計	7,048	1,464	8,512	3	8,509
セグメント利益	<u>327</u>	150	<u>477</u>	<u>244</u>	<u>233</u>

(注)1. セグメント利益の調整額 244百万円には、報告セグメント及びその他に帰属しない本社管理部門にかかる費用が116百万円、営業外収益が61百万円、営業外費用が23百万円及び退職給付会計の数理計算上の差異の償却に係る信託株式の時価変動による損益(は損失)が166百万円含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)
(訂正前)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	2円17銭	2円78銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	71	91
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	71	91
普通株式の期中平均株式数(千株)	33,029	33,027
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(訂正後)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	3銭	3円50銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	1	115
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	1	115
普通株式の期中平均株式数(千株)	33,029	33,027
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年12月15日

虹技株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 武田 宏之
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 石田 博信
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている虹技株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成25年7月1日から平成25年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、虹技株式会社及び連結子会社の平成25年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

四半期報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、四半期連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の四半期連結財務諸表に対して平成25年11月13日に四半期レビュー報告書を提出した。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。